

防災訓練を実施する

自主防災組織が主体となった防災訓練の実施

実施に向けて	防災訓練は自主防災活動の“核”となるものです。自主防災組織の活動状況や地域の実情に合わせてながら訓練内容を企画し、無理のない訓練を実施しましょう。 防災訓練は継続して実施することが重要です。訓練の実施記録をまとめ、課題や改善点を抽出し、次回の訓練に活かしていくことも大切です。
対象者	●自主防災組織の役員 ●地域住民
準備するもの	※“活動のためのツール”の「防災訓練を行う」を参考にしてください
お問い合わせ	●活動の相談：広島県自主防災アドバイザー制度（消防保安課：082-513-2790）

STEP 1 災害時の活動項目を確認します

“災害時の活動体制チェックリスト”を基に、「できていること、いないこと」を見直し、訓練が必要な項目を洗い出します。

※チェックリストは“活動のためのツール”に掲載しています



STEP 2 訓練内容を企画します

実施項目、想定災害、日程などを決め、防災訓練のシナリオを作成します。

STEP 3 実施に向けた調整を行います

地域住民への実施案内、会場確認、関係機関との役割分担など、実施に向けた調整を行います。



STEP 4 防災訓練を実施します

シナリオに基づき、防災訓練を実施します。ケガや事故のないように注意しましょう。問題点などがあつた場合は、その都度メモを取り、次の訓練へ反映できるようにします。

防災訓練実施のポイント

- 防災訓練の実施による「課題」や「改善点」の抽出も、訓練の大きな目的です。
- 訓練は、たくさんの人が参加し防災に興味を持ってもらうことが大切です。まずは“地域住民が参加しやすいもの”や“楽しめるもの”を企画してみましょう。
- 防災訓練の企画や実施に向けた調整内容、当日の役割分担などは、記録し残しておきましょう。
- 活動の記録が“地域版の防災マニュアル”として役立ちます。

防災訓練の実施項目

自主防災組織が主体となる訓練

自主防災組織が主体となり、町内会や班単位、地域全体で実施する訓練です。何度も繰り返す事で、知識・技術を習得できるだけでなく、活動を習慣化することにより災害時の迅速な対応につながります。

実施項目	難易度
避難訓練（避難経路の確認・避難誘導・避難者の確認）	★☆☆
通報訓練	★☆☆
防災備品の使い方講習	★☆☆
初期消火訓練（バケツリレー）	★☆☆
負傷者搬送訓練	★★☆
情報伝達訓練（口頭・電話連絡、避難勧告）	★★☆
炊き出し訓練	★★☆
災害対策本部設置訓練	★★☆
避難所開設訓練（建物安全確認、災害対策本部設置、応急処置・女性専用部屋の設置など）	★★☆
避難所運営訓練（避難者把握、非常食配布、救援物資の配布など）	★★★
支援が必要な住民の避難支援訓練	★★★

専門機関の協力が必要な訓練

専門的な知識や特殊な機材を用いる訓練です。関係機関に協力を依頼し実施しましょう。機材などの提供は予約順となる場合があります。なるべく早めに相談するようにしましょう。

実施項目	協力依頼機関	難易度
情報連絡訓練	自治体	★☆☆
防災倉庫の備蓄品展示	自治体・倉庫の管理者	★☆☆
はしご車、消防車など特殊車両の展示	消防署	★☆☆
濃煙体験訓練	消防署	★☆☆
初期消火訓練（水消火器を使用）	消防署	★☆☆
実験装置を利用した災害疑似体験（起震車など）	消防署	★☆☆
応急・救護訓練（応急手当、AED講習）	消防署・医療機関	★☆☆
救出訓練	消防署	★★☆
救援ボランティア対応訓練	社会福祉協議会	★★☆
避難行動要支援者の避難訓練	社会福祉協議会	★★★

活動事例①

実施地域	三原市 本町連合町内会自主防災委員会
実施日	平成24年11月25日
参加者	本町地区住民 334名
協力	●地元小学校 ●消防団 ●消防署 ●警察署 ●民生委員・児童委員 ●地元企業 ●市役所 ●防災士会 ●広島県自主防災アドバイザー
想定災害	南海トラフを震源とする大地震（マグニチュード9.0）が発生。三原市においても震度6強の揺れが観測され、揺れに伴う家屋倒壊や火災発生を想定した。

●訓練実施までの流れ

STEP 1 防災訓練の企画

グループワーク形式で防災訓練企画会議を実施し、防災訓練の目的、災害による被害想定、訓練の実施項目などを検討しました。



STEP 2 実施に向けた調整会議（全3回）

一時避難所の決定、準備品と調達者、訓練運営の時間割などについて話し合いを重ね、会議内容を「防災訓練実施要領」としてまとめました。

■会議に参加した団体・機関

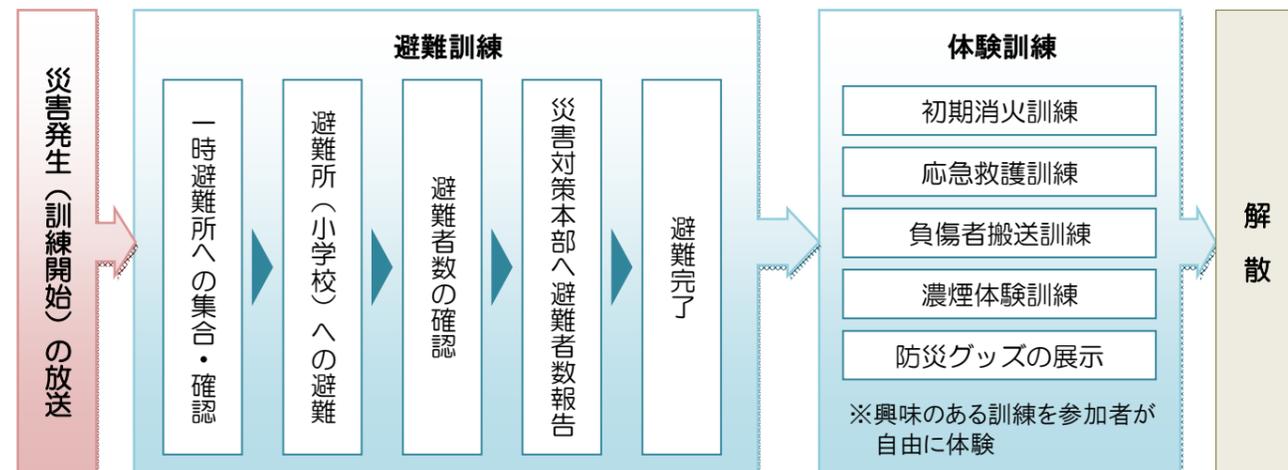
- 民生委員・児童委員
- 市役所
- 地元消防団
- 消防署



STEP 3 防災訓練の実施

「防災訓練実施要領」を基に訓練を実施し、活動の記録をまとめました。

●訓練の実施項目



●実施状況写真



▲一時避難所への集合



▲避難訓練（警察による交通整理）



▲支援が必要な住民の避難訓練



▲小学校への避難完了



▲濃煙体験訓練（消防署指導）



▲初期消火訓練（消防署指導）



▲応急救護訓練（消防団指導）



▲防災グッズの展示（防災士）



▲地元企業からの機材提供

参加者の感想

- ・近所の方と避難や災害時の行動について話し合う機会を持つことができました。
- ・地区の町内会が一齐に訓練を行うことで防災意識が向上し、訓練の大切さをみんなで理解することができた。

活動メモ

【活動で困ること】

- ①訓練の想定災害が分からない。
- ②訓練の日程が決まらない。
- ③参加者が集まらない。
- ④避難訓練で全員の避難が完了するまで待ち時間ができてしまった。
- ⑤訓練がマンネリ化してきた。

【改善案】

- ①広島県や自治体で公表されている災害被害想定を参考に、地域で関心の高いものにしてみましょう。
- ②地域行事と重複しないよう住民団体などと調整し、参加者が集まりやすい日を設定しましょう。
- ③チラシ配布による事前周知も有効ですが、町内会・自治会で参加者数を割り当てることも効果的です。
- ④待ち時間に中だるみしてしまわないよう、ちょっとしたミニ講座や防災クイズなど、参加者の興味を引く内容を準備しておきましょう。
- ⑤アンケート結果などから改善点を見つけ、次年度の訓練に活かしていきましょう。